

第2回高砂市新たな学校づくり推進審議会 会議録

日 時 令和7年2月12日（木）19時00分から

場 所 高砂市役所南庁舎5階大会議室

出席者

【委員】（名簿順、敬称略）

押田 貴久、安枝 英俊、塩田 和子、坂牛 裕、赤松 祐人、藤原 寛文
三好 美弥、衣笠 彩、八木 直子、大谷 敬一郎、塩谷 右京、川由 伸一
渋谷 一郎、山里 護

【事務局】

玉野教育長、木田教育部長、福本教育推進室長、平山学校教育室長
矢野学校教育室参事、石原教育総務課長、長谷川教育総務課係長、井上教育総務課職員

【事業者】

ファインコラボレート研究所（土肥）

欠席者 1名

傍聴者 0名

内 容

- 1 開会
- 2 諮問
- 3 議題
 - （1）アンケート調査（令和6年11月実施）結果について
 - （2）高砂市立学校の現状と課題について
 - ・児童生徒数・学級数の推移
 - ・多面的な実態把握
 - ・学校施設・運営面での教育課題
 - （3）基本方針及び推進計画策定のながれ
 - （4）市民説明会の開催について
- 4 閉会

資 料

【事前配付】

高砂市新たな学校づくり推進審議会（第2回）次第

資料1 高砂市新たな学校づくり推進計画策定に向けたアンケート調査結果報告書
【概要版】

資料2 児童生徒数・学級数の推移

資料3 多面的な実態把握

資料4 学校施設・運営面での教育課題

資料5 基本方針及び推進計画策定のながれ

資料6 市民説明会の内容について

1 開会	
事務局	事前配付させていただいておりました資料 1 から 6 をお持ちでしょうか。 前回同様、審議会の様子を撮影させていただきたいと思いますので、支障がございましたら、事務局にお申し付けください。 今後、審議会や市民説明会等に参加していただく予定となっている計画策定の委託事業者の株式会社ファインコラボレート研究所の職員の方が来られていますので、簡単に自己紹介をお願いします。
事業者	ファインコラボレート研究所の土肥と申します。これからたくさんお世話になると思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。
会長	高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第七条に基づき、今回の審議会は公開とします。傍聴希望者はいらっしゃいますか。
事務局	傍聴の申し出はありませんでした。
会長	委員の出欠状況をお願いします。
事務局	到着されてない方もいらっしゃいますが、欠席の連絡は受けておりませんので、後程来られると思います。
会長	過半数の委員の出席をいただいておりますので、高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第六条第 2 項により、本会は成立しております。 それでは、第 2 回高砂市新たな学校づくり推進審議会を開会します。
2 諮問	
教育長	令和 7 年 2 月 12 日、高砂市新たな学校づくり推進審議会会長 押田貴久様。 高砂市新たな学校づくり推進計画の策定について（諮問） 児童生徒に望ましい教育環境を持続的に提供することを目的に、高砂市新たな学校づくり推進計画を策定するため、高砂市新たな学校づくり推進審議会条例第二条に基づき、下記の内容について諮問いたしますので、御審議の上、御答申いただきますようお願いいたします。 （１）適正規模適正配置に関する基本方針について （２）学校再編の考え方について （３）施設の整備基準について （４）その他、上記に関連する事項について よろしくお願いいたします。
会長	高砂市教育員会からの諮問の内容を今後、審議していきたいと思いますので、委員の皆様、よろしくお願いいたします。
3 議題	
（１）アンケート調査（令和 6 年 11 月実施）結果について （２）高砂市立学校の現状と課題について	
会長	議題（１）アンケート調査（令和 6 年 11 月実施）結果について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料 1 高砂市新たな学校づくり推進計画策定に向けたアンケート調査結果報告書【概要版】をお願いします。 アンケート調査は、大きく 2 つの目的で実施しました。 1 つ目は、新たな学校づくり推進計画の策定を行っているということを広く皆様に知っていただくことです。少子化や施設の老朽化、教育環境の変化などを知っていただき、それらへの対応が必要であることを意識していただくとともに、その取組として新たな学校づくりの検討を始めたということをご理解いただきたいと思います。 2 つ目は、アンケート調査結果を計画策定や審議会の議論に活用する基礎資料とすることです。 1 ページをお願いします。 アンケート調査は、令和 6 年 10 月 21 日から 11 月 30 日まで約 1 カ月実施いたしました。

対象は、市立学校に通う児童生徒とその保護者、市内の幼稚園・こども園等に通う未就学児の保護者、市立学校に勤務されている教職員、一般市民の方々です。今回は、インターネットによるアンケート方式といたしました。

配布・回収の表の通り、有効回答率は、小学生は85%以上、中学生は約59%、保護者は16%から24%、教職員は約76%となっております。

2 ページをお願いします。

【これからの学校教育で重視してほしいこと】についてです。

全体では、「集団の中で主体性や協調性を身につける機会に恵まれること」、「一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導」が過半数を超える高い回答結果となりました。属性別で見ますと、教職員は、これらに加えて、「グループ学習や習熟度別指導など多様な学習環境」を重視されており、全体より高い回答割合となっています。児童生徒の保護者は、「クラブ活動や部活動などの選択の幅が広いこと」、未就学児の保護者は、「たくさんの友達ができること」が全体より高い回答割合となっています。

3 ページをお願いします。

【小学校の最適なクラス数とその理由】についてです。

全ての属性において、1学年あたり「3クラス」との回答が1番多い結果となっています。理由としては、「クラス替えができるから」、「色々な人の考え方に触れる機会があるから」の回答割合が高くなっています。

4 ページをお願いします。

【中学校の最適なクラス数とその理由】についてです。

全ての属性において、1学年あたり「4クラス」との回答が1番多い結果となっています。理由は小学校と同じですが、小学校より「色々な人の考え方に触れる機会があるから」の回答割合が高い結果になっています。

5 ページをお願いします。

【1学年1クラスのメリット】についてです。

小学校高学年と中学生は、約6割が「クラスの皆と仲良くなれる」ことをメリットと感じています。教職員等は、「クラスの皆と仲良くなれる」ことに加えて、「学校行事や部活動などで一人ひとりの活動機会が多くなり、リーダーを務める機会も多くなる」ということをメリットと感じられている回答もありました。一方で、同じぐらいの割合で、「メリットはない」と感じられている方もいます。

6 ページをお願いします。

【通学時間の許容範囲】についてです。

小学生と中学生の通学時間について、全ての属性が「30分以内」を許容範囲と考えられている方が多い結果になっています。

7 ページをお願いします。

【児童生徒数の減少に対する最も望ましいと思う対策と理由】についてです。

小学校高学年、中学生、教職員等は「近隣の学校と統合」の回答割合が高くなっていますが、児童生徒の保護者、未就学児の保護者は「通学区域の変更」の回答割合が高くなっています。属性により若干考え方の違いがみられますが、どの属性も、「地域の実情に応じた小規模な学校の存続」が望ましいと思っている方が3割程度ずついらっしゃいます。しかし、全体の7割程度は児童生徒数の減少に対して何らかの対応が必要だと考えられている結果となっています。

10 ページをお願いします。

【学校の建物で改善してほしい場所】について、3つまで挙げてくださいという設問です。

小学生はトイレ・自分の教室・プール・遊具、中学生はトイレ・特別教室・体育館、児童生徒の保護者はトイレ・体育館・普通教室、教職員等は特別教室・普通教室・体育館・トイレが改善してほしい場所として回答が多い結果となっています。

11 ページをお願いします。

	【学校の建物についてどのように改善してほしいか】についてです。 「きれいになって欲しい」と「エアコンをつけて欲しい」という回答が非常に多い結果となっています。 13 ページをお願いします。 【学校施設について意見や要望】を自由記述で回答していただきました。 下側のテキストマイニングを見ていただきますと、体育館やトイレが大きく、特別教室、冷暖房、古い、汚い、きれいといった単語が大きくなっています。これらから、体育館や特別教室に冷暖房を設置してほしい、トイレ・校舎についてきれいになってほしいといった思いを持たれている方が多いと推測されます。 アンケート調査結果は、今後の方針策定の中で基礎資料として活用していきます。なお、全体の調査結果は2月末にホームページで公開予定ですので、他の項目についてもご確認されたい方は、ご覧ください。
会長	議題（2）高砂市立学校の現状と課題について、事業者から説明をお願いします。
事業者	資料2 児童生徒数・学級数の推移をお願いします。 1 ページをお願いします。 高砂市全体の児童生徒数の推移を表しており、緑色の折れ線グラフが児童生徒数の合計、青色が児童数、ピンク色が生徒数です。グラフの真ん中が2024年現在で、それより右側が将来推計の結果です。将来推計は、国の人口推計でも用いているコーホート要因法という推計方法で、出生と死亡といった自然増減、転出入の純移動率、2つの変動要因を反映して推計しています。 高砂市の児童生徒数は、1984（昭和59）年の1万5,364人をピークに減少しており、2024年現在は6,651人と、ピーク時から57%減少しています。一般的にピーク時から50%以上減少していると統合や再編などの検討を始めている自治体が多く、高砂市でもその時期を迎えていると言えます。 将来推計を見ますと、右肩下がりで減少傾向が続く予測となっており、10年後は27%減少、20年後は33%減少、40年後には3,027人と、現在からさらに半減する予測となっています。 2 ページをお願いします。 児童生徒数の推移を中学校区別に整理し、折れ線グラフで示しています。 灰色の宝殿中学校区は、昔から最も児童生徒数が多い学校区になりますが、40年前の1983年から現在までで約2,000人児童生徒数が減少しており、減少率が55%になります。 1番下の高砂中学校区は、ピーク時から現在まで約1,200人減少しており、減少率が約70%と大きな減少傾向が確認できます。 黄色の荒井中学校区は、20年前から10年前までにかけて少し右肩上がりとなっており、土地区画整理事業や開発などで人口が流入して少し児童生徒数が増加した時期があったことが確認できます。 このように、中学校区によって児童生徒数の推移が異なっていることが確認できます。 3 ページと4 ページをお願いします。 将来推計の結果を基に、いつ、どこで、どのような状況になるかを整理しています。 表のピンク色が19学級以上の大規模校になる時期、黄色が11学級以下の小規模校になる時期、赤色が全学年で1学級になる時期を示しています。地図で時系列に見える化しており、丸が小学校、四角が中学校、数字は普通学級数です。 3 ページの10年前の地図を見ると、児童数が増加していたところもあり、ピンク色の19学級以上の学校が小学校では3校、中学校で1校ありました。 令和6年現在の地図を見ると、小学校は2校が19学級以上の大規模校ですが、高砂中学校、竜山中学校、中筋小学校、北浜小学校の4校で小規模校化が始まっ

ています。

4 ページの 10 年後の地図を見ると、小学校では大規模校がなくなり、全学年で単学級になる学校が 1 校出現しています。中学校は 4 校で 11 学級以下となるなど、小中ともに特に中央部で小規模校化が進み、今後 10 年で大きく変化することがわかります。

20 年後の地図を見ると、その状況がさらに拡大し、小学校では全学年が単学級の 6 学級校が 3 校に増えるほか、その他の学校もぎりぎりクラス替えができる 12 学級校が増加するなど、市内全域で小規模校化が拡大していきます。

この事業は長期にわたる取組のため、定期的に将来推計を更新しながら、今後 10 年、20 年の間にどこでどこまで小規模校化が進むのか、限界点を意識しながら計画を検討していく必要があると考えています。

資料 3 多面的な実態把握をお願いします。

1 ページをお願いします。高砂市立小中学校の基礎情報です。

築年数のところは、築 40 年以上の学校をピンク色にしています。

2 ページをお願いします。学校配置と通学区域の状況を整理したものです。

左側は小学校区の状況です。1km 圏の円が 4 つあり、重なっているところもあるため、比較的近い距離に学校が立地していることが確認できます。

右側は中学校区の状況です。竜山中学校と松陽中学校が近い距離に立地していることが確認できます。

3 ページをお願いします。

左側の地図は、小学校区と中学校区を重ねており、下地の色が小学校区、黒い太線が中学校区です。小学校区と中学校区はおおむね一致していますが、過去に近隣市と組合立学校として運営していた宝殿中学校は市境に立地していたり、北浜小学校は山を越えて鹿島中学校に通学していたり、中学校の配置が偏っていることがわかります。また、伊保小学校は 1 つの小学校から 2 つの中学校に分かれて進学する分散進学となっており、その課題としては、一般的に小学校 6 年間で培ってきた交友関係が分断すること、小学校と中学校相互の情報交換などの面で連携した指導が難しいことなどが挙げられます。

右側の地図は、都市計画マスタープランの 8 地域と小学校区、中学校区を重ねています。

高砂市の特色として、現在の学校区は昭和の合併時の旧町村をベースとして設定されているケースが多いことが挙げられます。今後は、この旧町村を超えた検討が出てくる可能性があると思います。

4 ページをお願いします。施設状況についてです。

左側のグラフは、横軸に建設年度、縦軸に延床面積、1 つ 1 つのマスの各学校の建物を表現しています。高砂市立小中学校 16 校の延床面積は約 13 万㎡ありますが、保有面積の約 61%にあたる 7.9 万㎡が建築後 40 年を経過しています。一般的に、築 40 年前後で老朽化した施設を将来にわたって長く使い続けるため、単純な不具合への対応だけでなく、建物の機能や性能を現在の学校が求められる水準まで引き上げる長寿命化改修が必要と言われており、6 割の学校が長寿命化や建替えの時期を迎えている状況です。

右側のグラフは、今後施設を維持更新するのに必要な 40 年間の経費を試算したもので、令和 4 年 3 月に改訂した「高砂市学校施設等個別施設計画」に掲載されているグラフです。今後 40 年間で 321 億円、年間平均 8 億円が必要という試算結果となっていますが、当初の計画で見込んでいた不具合対応や劣化対応が実施できていない状況もあったため、令和 6 年度は修繕費を増やして安全確保に努めています。ただし、今後の財政状況を考えると、今ある建物全てを改修や建替えて維持更新していくにはさらに莫大な費用が必要となりますので、効果的な対応策を検討する必要があります。

5 ページをお願いします。建物の劣化状況を学校配置図に表しています。

赤丸は令和 6 年度に実施した外壁調査で、早急に対応が必要な劣化が見つかった

	学校です。また、斜線部分の学校は、コンクリート圧縮強度などから長寿命化が難しいと判定された学校です。 こういったことも考慮しながら、これからの学校施設整備の在り方を検討していく必要があります。 資料 4 学校施設・運営面での教育課題をお願いします。 1 ページをお願いします。 現在、教育現場では、特別支援や不登校支援などの児童生徒数の増加や、プール・給食の在り方、教職員の多忙化などが課題となっており、より良い教育環境を実現するためには、学校施設だけではなく、日々の運営から見られる課題の解決も併せて対応していく必要があります。今回は特別支援教育と不登校児童生徒への支援についてご説明します。 2 ページをお願いします。 高砂市における特別な支援を要する児童生徒数・学級数の推移を示しています。高砂市では、昭和 55 年から特別支援学級を全校に設置しており、他の自治体では現在でも全校に設置していないところもありますので、他市に比べて早くから取り組んでおられます。この 30 年間、児童生徒数は 80 人前後で推移してきましたが、直近の 10 年では約 3 倍に増加し、令和 6 年現在は 245 人となっています。近年では、発達障害等に対する認知が広がり、早期に診断を受け、教育支援委員会での審議を希望する保護者が増えていることなどもあり、今後も児童生徒数が増加することが考えられます。 3 ページをお願いします。 学校の特別支援学級には 6 つの種別があり、特に知的障害学級、自閉症・情緒障害学級はおおむね全ての学校に設置されている状況です。また、特別支援学級の教員は、特別支援学級を設置している全ての学校に配置されている状況となっています。 通級指導教室では、比較的軽度の障害のある児童生徒を対象に、週に 1 時間程度、自立活動等の指導を行っています。通級指導教室は拠点校方式となっており、現在、小学校は 5 校、中学校は 3 校体制で実施しています。教員配置は拠点校のみですが、その他の学校では巡回指導で対応している状況です。 通級指導教室に通室している児童生徒は全体の 2% 程度です。拠点校以外は同程度の数値となっていて、必要な支援が巡回指導方式によって児童生徒に届いていることが読み取れます。 4 ページをお願いします。 左上のグラフは中学校の不登校生徒数の推移、左下のグラフは小学校の不登校児童数の推移を表すグラフです。 小学校 3 年生以降は中学校 2 年生まで学年が上がるごとに増加し、中学校 2 年生または 3 年生が例年最も多くなっています。小学校 6 年生から中学校 1 年生への進学時に例年増加していることから、いわゆる「中 1 ギャップ」に対応できない子どもがいることも考えられます。 現在、高砂市では不登校の子どもを対象とした学校以外の学びの場として「のびのび教室」を設置しています。右上のグラフは「のびのび教室」の在籍者数の推移を表しており、年間 20 人台で推移してきましたが、直近の 2 年間は増加傾向となっています。そのため、令和 6 年度より南庁舎の 5 階にサテライト教室を設置して対応している状況です。 5 ページをお願いします。 参考にそれ以外の様々な不登校支援の対応策を整理しています。校内支援として、サポートルームや教室以外の居場所を作っている学校があること、校外支援として、学びの多様化学校や民間フリースクールなどで対応している自治体もあります。
委員	資料 2 の児童生徒数・学級数の推計には、特別支援学級数は含まれていないですか。

会長	含まれていませんので、実際にはもう少し多くの学級数があります。
委員	全ての学校で改修等が必要な危機的状況にあることと、20 年後には適正数を保てる学校がほばないことがわかったので、施設整備の財政状況を兼ね合いながら進めていかないといけないと理解しました。
会長	全部を直すとか建替えるのは財政的に厳しいので、再編を含めた効率的、効果的な学校の在り方の検討に向けて、今後ともご意見をいただければと思います。
委員	アンケート調査で、クラブ活動を重視する保護者がいる一方で、教職員は消極的という結果を受けて、学校を統合したり、建物を改修したりする時にも意見が分かれると思いました。
会長	立場や住んでいる地域によって意見が違うのは当然のことだと思いますので、そういったところを調整する難しさもありますが、より良い方向に進めたいと思います。
委員	体育館の冷暖房の設置に関して、予算は通っていますか。
事務局	小中学校の体育館の空調設備については、予算を確保し、2025 年 6 月末までに設置するよう進めています。
委員	体育館に空調が整備されれば、夏場の猛暑を乗り越えることや最低限の避難生活が送れる体制は整ったと思います。ただ、普通教室は全教室に空調が整備されていますが、特別教室は基本的に整備されていないと聞いていますので、アンケート調査結果に強く出ていると思います。
会長	古い建物に整備してもすぐに冷暖房が抜けてしまう可能性があると思いますので、災害を見据えた更なる整備が必要だと思います。
委員	統廃合を考えつつも、学校の安全性の確保が大事だと感じていますが、修繕にお金を使ってもすぐに統廃合となると、使い道に不満がでると思います。
委員	最近地震が多く、安全面での対応を早急にする必要があると思いました。また、アンケート調査の【学校教育で重視する点】について、きめ細やかな指導をするのに心のゆとり・職員一人ひとりのスキルアップが必要になることについて、どう対応していくのかなと感じました。
委員	外壁やベランダのコンクリートが落ちてくるかもしれない場所で生活をさせてあげたくないの、こどものことを第一に考えた新たな学校づくりを考えなければいけないと思っています。費用はかかるし、直した後どのようにするのかもありますが、早急に安全面を確保してほしいと思っています。
委員	こどもが通っている学校はトイレもきれいなので、改善してほしいと思ったことはないですが、きれいにした後統廃合になった場合、どうなるのかなと感じました。
会長	トレイが 1 番目立つので、早急に改善して欲しい場所だと思いますし、災害の時にトイレが機能しない可能性も踏まえて、色々考えないといけないと思います。
委員	資料 1 のアンケート調査結果報告書の 2 ページで、教職員のクラブ活動や部活動についての選択割合が 11%と低いのは、部活動が地域移行になっていくのが理由で、きめ細かな指導やグループ学習についての選択割合が高いのは、今後の学習がそういう方向性だからだと思います。保護者は部活で得ることが大きいと感じているため、選択割合が高くなっていると思っています。 現状、中学校でエレベーターが設置されているのは鹿島中学校だけです。他校区から鹿島中学校に通学している生徒もいます。今後のことを考えると、全中学校にエレベーターを設置し、誰もが自分の育った地域の中学校に行けるのが必要ではないのかなと感じています。 それから、再編するにあたって、宝殿中学校は校区の中心に建てるのが 1 番大事だと思います。
委員	資料 3 の多面的な実態把握の 5 ページで、建築後 13 年しか経っていない阿弥陀小学校に赤丸がついてるのは、どんな建築をしたのか気になりますし、建築後

	51 年が経過している北浜小学校に赤丸がついていないのは、どんな調査をしたのか疑問に思います。 資料 1 のアンケート調査結果報告書の 3 ページと 4 ページで、市民が良いと思っている各小学校、中学校の最適なクラス数は 3 クラス、4 クラスとありますが、資料 2 の児童生徒数・学級数の 4 ページを見ると、市民の思いが満たされてる学校の方が少ないですね。20 年後の推計では 1 学年 1 クラスで 15 人ずつになってしまう学校もあるので、早急に何かしらの手を打たないといけないと思いますし、広報活動をもっと進めていかないといけないと思います。
会長	小規模校が増えていく推計結果になっていますので、それに応じた対応が必要になると思います。ただ、複式学級にはならないので、思ったよりは減らないなと感じています。複式学級にならないように統廃合を進めた市町村もあるので、単学級が 2 クラスに戻る推計の学校は、規模としては緊急に行わなければならないというほどでもないことも専門の立場からは言った方がいいと思っています。ただ、市民のニーズはもう少し複数規模の大きな学校がいいという声も多くあるので、その辺のバランスを取っていかないといけないと思います。
委員	資料 1 のアンケート調査結果報告書の 1 ページで、1 番驚いたのが教職員の回答率が低いことです。どういう PR をしてアンケート調査をしたのかわかりませんが、自分たちが働く職場のことなのに約 76% の人しか回答していないのが、1 番大きな問題だと思います。 児童生徒数が思ったより減っていないので、財政面も厳しく建物が維持できないけど統廃合もできないではなく、早めに動いて決めていっても良いと思います。
会長	アンケートに子どもたちの声がこれだけ反映されているのはありがたいですし、政策を作っていくには大事だと思います。
委員	児童生徒数が減少している中で、令和 9 年度に計画策定とありますが、高砂小学校・高砂中学校の改編の方針があったと思います。全体方針もいいですが、ひとつずつスタートを切ったほうが良いと思いました。
事務局	高砂小学校・高砂中学校の話が出たのはかなり前だったと思いますが、その時も児童数が減ってきたことで、荒井小学校の一部を高砂小学校に変更できないか、その他の方法として小中一貫教育校でなんとかできないかという話でした。このような委員会で議論して、高砂小中学校については小中一貫教育を進めていくという話に落ち着き、現在、連携して実施しています。 統廃合を一体的にするのか、または、高砂小中学校の児童生徒数も減ってきているため、もう一度再編を考えるかについては検討したいと思います。
委員	学校配置について、現状の課題としては、学校同士が近い・不便なところにある・分散進学をしないといけない・旧町村に対する地元の人の思いも配慮していたということだと思います。 アンケート調査結果から、望ましい学級数は小学校で 3 クラス、中学校で 4 クラスをベースに考えたらいいのかなという印象を受けています。適正配置とか統廃合は色々な問題が発生しますので、どのように進めるか考えないといけないと思います。7 割ぐらいの人は統廃合も仕方ないと思っていますが、3 割の人はこのままを希望しているので、そこへの対応を今のうちから考えていく必要があると思います。 学校の統廃合に関して、通学時間、距離、安全性に関することが心配だと思います。各教室に直ぐに行けるように職員室を 2 階に配置しているところがありますが、外部から不審者が入ってきても、先生が把握できない位置にあると思いますので、安全面を考えると、職員室から外部の人が入ってくるのが見えるような施設の整備基準、安全性等について考える必要があると思います。 近所に外国籍の方が結構増えてきていると感じているので、外国籍児童生徒への対応が必要になると思います。ハード面でどれだけ対応しなければいけないのかわからないですが、頭の隅に置いておく必要があると思いました。

副会長	資料1のアンケート調査結果報告書の3ページと4ページで、小学校と中学校の最適なクラス数は適正規模・適正配置を考える時に、すごく大事なデータだと思います。児童生徒と保護者と教職員等で適正規模に対する認識がかなり違うことがわかったので、クラス数の多い学校に通っている人及びクラスの少ない学校に通っている人はクラス数をどう思っているのかなど、学校の規模別に意見がどう違うのかが見えると、もう少し丁寧な議論ができると思いました。
事務局	学校区、小学校、中学校ごとにクロス集計しています。人数が少ない小学校であっても3クラスという回答が多かったです。中学校については、生徒数に限らず、最適なクラスは4クラスとの回答が多かったです。
会長	委員からいただいたご質問・ご意見について、事務局から何かありますか。
事務局	学校別劣化状況について、北浜小学校に赤丸がないのは、外壁工事を行っていたから見つからなかっただけで、健全できれいというわけではないです。また、阿弥陀小学校に赤丸がついているのは、コンクリート躯体自体の劣化ではなく、型枠のモルタルが落ちている部分があり、高所だったため危険と判断しました。
委員	アンケート調査の教職員の回答率は本来100%になってほしいところでありました。小学生は76.2%とアンケート調査としては信頼性が高い結果だと思いますし、中学生も58.7%で、しっかりと意見が反映されていると思います。児童生徒の保護者が16.3%、未就学児の保護者が23.5%ということなので、この結果だけでは、児童生徒の保護者・未就学児の保護者の意見は信憑性が欠けると思いますので、もう少し意見を聴取して、補足が必要ではないかと思います。
会長	第1回目の傾向としてはこういったご意見があることを認識していただき、今後は補足しながら進めていく必要あると思います。
3 議題（3）基本方針及び推進計画策定のながれ	
会長	議題（3）基本方針及び推進計画策定のながれについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	令和6年度は、児童生徒数の推計や多面的な実態把握、学校施設・運営面での教育課題として、小中学校を取り巻く現状を把握し、アンケート調査結果などと重ね合わせて課題を明確化する作業を進めています。 令和7年度は、これらの実態や課題に第4期高砂市教育振興基本計画を踏まえて論点を設定し、これからの学校像について審議会で議論を進めていただき、それを元に適正規模・適正配置の基本方針をまとめていきたいと考えています。高砂市としてこれからどのような教育を目指すのかといった教育ビジョンを念頭において、これからの学校施設はどうあるべきなのか、具体的な議論を進めていただきたいと考えています。 資料5の上段、紫の帯で審議会の予定を記載しております。今年度は第2回までで、令和7年度は第3回からで、各回の会議構成案のところでテーマを定めて議論を進めていただきたいと考えています。 その下に青色で住民説明会の帯がございます。今後も、審議会の議論と並行しながら、適宜、報告会や意見交換会などの場を設けまして、市民の方々にご意見を伺い、審議会にフィードバックして議論に反映していくというように考えています。 令和8年度は、適正規模・適正配置の基本方針に基づいて小中学校の再編案を検討します。将来的には、高砂市の学校数は何校程度が望ましいのか、その際の校区再編の在り方や通学手段の在り方、地域の関わり方など、様々な観点から検討していきます。これについても方針策定と同様に、再編案が出ましたら、市民の皆様のご意見を伺う場を設定し、その案について、ご意見を頂き、審議会に報告して、計画をまとめていくという流れを考えています。高砂市新たな学校づくり推進計画は適正規模・適正配置だけでなく、再編案や、いつ、どの学校をどう整理するかロードマップ、どのような学校を建設するか整備方針、整備基準を1つにまとめ、令和9年9月に公表という流れで考えています。

会長	これからの学校像について、適正規模・適正配置、学校施設、特別支援教育、不登校など様々な角度で皆さんからご意見をいただき、このスケジュールで議論していきたいと思います。
3 議題（４）市民説明会の開催について	
会長	議題（４）市民説明会の開催について、事務局から説明をお願いします。
事務局	「みんなで考える高砂市の新たな学校づくり～高砂市の学校の現状とアンケート調査報告会～」と題しまして、市民説明会を開催します。 目的は、高砂市が新たな学校づくりに取り組んでいることをさらに市民の方々に知っていただき、アンケート調査などから正しい現状を皆様と共有し、今後の計画策定に向けて不安感を持たれている市民の方々をできるだけなくしていきたいと考えています。 各中学校区に１回、計６回開催します。元々、中学校の体育館を想定していましたが、非常に寒く、冷暖房もついていませんので、地域交流センターで開催することとしました。各回同じ内容の説明を行いますので、お住まいの地区に関係なく参加が可能です。事前申込制にしていますが、当日の参加も可能としております。 内容は、計画作りについて、アンケート調査結果報告を教育委員会から、小中学校の取り巻く現状について分析した内容をファインコラボレート研究所から説明していただこうと考えています。そして、参加されている方々でグループを作って感想を共有していただくとともに、質疑応答の時間を設けて、ご質問等に答えたいと考えています。時間は、約１時間半を想定しています。 たかさごナビや広報たかさご、児童生徒の保護者へはスクリレ、就学前の保護者にはルクミーなどで参加を呼びかけているところですが、申込が少ない状況でして、全６地区で２８人のお申込みをいただいているところです。各委員には各団体の代表として来ていただいておりますので、この説明会への参加を呼びかけていただきまして、１人でも説明会に参加していただける方を増やしたいと思っています。お忙しい中、なかなか難しいところですが、ご興味のある方も近くにいらっしゃるかと思いますので、一緒に行こうとお誘いしていただけると大変ありがたいです。また、今後も、適宜こういった説明会の場、ご意見を頂戴する場を設けていきますが、毎回人数が少ないことは良くないと思いますので、何かアドバイスがあれば、いただければと思います。
会長	説明会は、このような計画で進めていくということですが、現状申し込みの数が少ないところでもありますので、ご協力いただければと思います。
委員	どんなPRの仕方をされたのですか。
事務局	皆様に情報が届くように数回連絡しています。
委員	学校運営協議会でも様々な話をしていますが、子どもの教育に関して、保護者は全然興味ないと聞いていますので、親をどうやって引っ張り込むかというのが１番の課題だと思います。委員の方々も大変だと思いますけど、お声がけをしていただきたいなと思います。自分たちの先輩、高度成長期の人たちに比べて、ゆとりが絶対あると思いますが、自分の子ども、孫のことに関わる学校に対して無関心すぎます。自分たちの楽しみに時間を費やしすぎて、子どもにかかる時間や地域の宝である子どものことに向き合う大人が少なすぎると思います。今の子育て世代もひっくるめて、どのように育てていくかというのが１番大事なことだと思います。
委員	全てが完成するのはいつ頃でしょうか。
事務局	令和９年９月に公表しますが、そこから設計等をしていきます。
委員	例えば、小学校５年生の保護者の方とかは全く興味ないですね。
事務局	自分の子どもだけではなく、これから先のことを考えていくという意味では、今

	の保護者の方のご意見は大変貴重だと思っています。
委員	自分の子どもに無関心では、未来の子どもについて考えられないと思います。5、6年後に関わる今の小学校低学年からそれ以下の方々の方がまだ関心があると思います。
会長	学校を拠点とした地域作りになると思いますので、学校をどのように地域コミュニティにするのかを合わせて考えていかななくてははいけません。そうした時に、今ある学校がなくなってどう困るのか、新しい機能があつてより良くなるのであれば望ましいということも考えてもらうことになると思います。 説明会の内容を配信することなども事務局の方と相談していますので、まずは、様々な形で市民の方に知ってもらいたいと思います。
委員	YouTube で LIVE 発信すると、適時、見ることが出来ます。
委員	地域の中心として学校のコミュニティ・スクールがありますが、中筋・高砂・北浜地域にお住まいの方はやり玉に上がるだろうと危機感があると思います。そうではないと話しましたが、今日の説明を聞き、今後はそういうことを聞かれた方に話をしていきたいと思います。意識がない地域の方もいるので、PTA を通じて文書を出した方がいいのではないかと感じています。
委員	北浜の2月24日（月・祝）の15時から16時30分の時間設定はおかしいと思います。例えば、10時から11時半ならば、午前中なので話を聞きに行こうという気になるし、平日の晩であれば時間的に可能であるから行こうと考えるので、北浜の参加者が集まらないのは、時間設定が1番の大きな原因だと思います。当然、北浜小学校が無くなる可能性が1番高いと思います。47年間居住していても、適正規模の3クラス・4クラスになったことは一度もないので、2クラスが当たり前になっているところもあります。
4 閉会	
会長	本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。
事務局	委員の皆様、長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。 それでは閉会にあたりまして教育長よりご挨拶申し上げます。
教育長	アンケート調査結果から保護者と教職員の意識の違い、児童生徒数の減少・施設の老朽化の現状から個別にもっと早めに対応しないといけないなど、子どものことを考えた意見をいただいたと思います。また、ターゲットを明確にしながら、施策を考えていかないといけないとの意見もいただきました。 地道に子どもを育てていながら、子育て世代の政策を考えていかないといけないと思います。 本日はありがとうございました。
会長	以上を持ちまして、第2回高砂市新たな学校づくり推進審議会を終了いたします。